

<第4598回>

目的地：高島トレイル前編—2

担当者：白神

実施日：2025年5月4日(日)～5日(月)

形式：ロングトレイル・テント泊縦走

費用：¥2,160 (JR 京都駅発着) ¥220 (バス：マキノ駅⇒マキノ高原さらさ)
¥620 (バス：保坂⇒近江今津駅)

参加者：6名

行程：

4日(天気：快晴)

JR 京都駅(7:23)⇒(8:35)JR マキノ駅(9:01)バス⇒(9:22)マキノ高原さらさ(9:40)→(9:50)大谷山
登山口→(10:45)展望台(10:55)→(11:50)寒風峠[昼食](12:20)→(12:50)大谷山(13:05)→(13:15)
白石平→(14:05)抜土[水補給](14:20)→(15:15)近江坂分岐(15:20)→(16:05)大御影山[テント設
営・夕食]就寝(19:30)

5日(天候：晴れ)

(4:00)起床・朝食・テント撤収(5:35)→(6:50)大日尾根分岐(7:05)→(8:50)三重嶽(9:00)→(9:45)
水谷別れ→(10:50)武奈ヶ嶽手前草原[昼食](11:15)→(12:00)武奈ヶ嶽→(12:35)赤岩山→(14:45)
水坂峠→(15:15)保坂BS(15:45)⇒(16:05)近江今津駅[解散]

感想：

私にとってマキノ高原から寒風峠へのルートは登り下りの違いはありますが、同じ季節に3年連続の経験でした。そして今年、3度目の正直で、高島トレイルの前半部分(北側)を踏破することができました。お付き合いいただきました皆さんに感謝いたします。

寒風峠までの登りは、振り向けば奥琵琶湖やマキノのメタセコイア並木を望むことが出来、この季節にはブナの新緑に癒されるルートです。寒風峠で琵琶湖を見ながら食べるお昼ご飯は最高！

寒風峠から大谷山までの稜線は、琵琶湖西側の山々の稜線のなかでも、最も気持ちのいい稜線の一つではないでしょうか。

大谷山から抜土に下って、今晚と明日の水を補給した後、昨年登山道の両脇を埋め尽くしていたイワカガミとの再会を楽しみにしていたのですが、今年は昨年ほどはありませんでした。やはり当たり年とかあるのでしょうか。近江坂分岐から大御影山までのルート脇にはテント設営に適した場所が何か所かありましたが、我々は翌日の行程も考えて、大御影山まで行くことにしています。

大御影山に到着し、山頂から少し進んだところの電波反射板近くにテントを張りました。夕食を食べ終わる頃、西の山々の向こうに日が沈み、やがて頭上には半分欠けた月と木星がランデブーしていました。

夜、かなり気温が下がったみたいで、薄手のシュラフだった私は寒さに震えてしまいました。風も強かったみたいですが、私たちのテントがバタバタすることはありませんでした。幸い、風のおかげで、夜露も降りてなく、乾いたままのテントを撤収することができました。東の空の明けの明星である金星が徐々に輝きを無くしていくのを見ながら出発の準備です。

二日目最初のポイントは大日尾根分岐です。ここから若狭方面に向かう道は、近江坂とも言われ、その昔、若狭と近江を結んだ古道です。歩きたがりの虫がざわざわとします。

2番目のポイントは、昨年熊の目撃情報があった三重嶽。なんとなく、周辺に気を使いながら歩いています。

武奈ヶ嶽の手前の開けた草原で昼食をとりました。ここからは遥か今日出発した大御影山からの稜線を望むことも出来ました。さらにこのあたりは、数年前青雲会の例会で、霧に巻かれて視界が効かずリングワンダリングに陥った場所でもあります。その時の経験者も今日のメンバーにいましたが、そう言えばそうでした、あの時は霧で何も見えませんでしたとのこと。

武奈ヶ嶽から先は基本的に下り基調。赤岩岳から先はメンバーの口数も少なくなってきた様です。ラストの激下りを前に最後の休憩を取って、トレイルの中間地点水坂峠を目指して慎重に下っていきます。そしてようやくたどり着いた水坂峠の車道。ここから先の高島トレイルの入り口を確認して、保坂バス停へと下って行きました。